



第3回 自転車安全教育検討部会

2025. 3. 24 (月)

14:00-15:30

建設局自転車政策推進室

本日の流れ



1. ルーブリックの作成に関して（前回の振り返り）
2. 自転車の交通安全教育の充実化に向けた官民連携協議会
第4回の内容（抜粋）※別紙
3. 高校生を対象とした研究結果の紹介（吉田委員から）
4. 行動評価表（ルーブリック）の観点（案）
5. 第4回部会の日程及び今後のスケジュールについて



1. ルーブリックの作成に関して（前回の振り返り）

自転車安全教育で作るなら.....

- ▶ 作るべきは観点別ルーブリック
- ▶ 基本は特定ジャンルのルーブリック、一部観点では長期的ルーブリック？
 - ▶ 公道で走る以上は、どの年代にも共通に備えておくべき思考力・判断力は存在する（何歳だからこの力は要らない、とは考えにくい⇒長期的ルーブリックは不向き）
 - ▶ 一方で、ライフステージごとに異なる観点もある（子育て世代、老年期など⇒長期的ルーブリックにする余地はある）
- ▶ 作成方法は「成果物がない場合②」か
 - ※「望ましい走行」の模範例（VTRなど）があるなら、「成果物がある場合」で
 - ▶ 出し合った「条件」のうち、ルーブリックにすべきものを精選する（そうでない「条件」は、チェックリストとして別個に作る）
 - ▶ 技能の場合、記述語が「徴候」的になりやすい（＝チェックリストになりやすい）のでアンブレラ・ワードを心掛ける



1. ルーブリックの作成に関して（前回の振り返り）



★ライフステージ別でこのような表ができるのが理想

☆ 汎用的スキル ★ 態度・意欲・学びの価値

資質・能力の分類	A～Dに関する各資質・能力とその定義		第1ステージ			第2ステージ		第3ステージ			第4ステージ			第5ステージ		
			年長	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	
A 地域理解	自分たちの地域の歴史や文化、現状や抱えている課題、活用資源を理解し、ふるさとに愛着をもちながら町の発展・創造に関わる自分の役割等を捉える。		身近な「ひと・もの・こと」との関わりを通して、自分たちの住んでいる場所のよさとして受け止めることができる。			地域の人々の暮らし、生活の知恵や伝統など、住田固有のよさについて理解を深め、それらを大切に地域に積極的に関わることができる。		住田の歴史、文化、産業、先人などに関する住田ならではのよさや文化遺産を通して受け継がれているものを捉え、自己の生き方のかかわりで考え続け、更に発展させていこうと取り組むことができる。			地域の発展に貢献した先人の業績や、経済や産業などの現状を踏まえ、住田固有のよさを継承したり、現在住田町が抱えている課題について、よりよい解決を目指したりするなど、積極的に地域の一員として生きる自分を自覚しながら取り組むことができる。			地域の「ひと・もの・こと」とつながりながら、これからの町づくりについて考えを深め、住田で学び、暮らしていることに誇りを持ち、地域社会の一員として住田町の発展に寄与することの大切さを捉え、取り組むことができる。		
B 社会参画に関する資質・能力	1 ☆見通す力	【☆見】	自分や集団にとっての課題や問題を発見し、その解決方法を見いだす問題発見力。情報を適切に活用する力。目標の達成に向かって解決の道筋を見通し計画する力。	身近な「ひと・もの・こと」について思いや願いを持ち、その実現に向けて、目標を自ら設定して計画を立てたり、手順を考えたりしながら、取り組むことができる。			身近な「ひと・もの・こと」に関わり、自分にとって価値のある見出した課題について、解決の計画を立てて取り組むことができる。		自分が見出した課題に対して根拠のある予想や仮説をもちながら、解決方法を考えたり、自分の考えを絶えず見直し検討したりすることができる。			これからの地域の在り方に願いをもちながら、抱えている複雑な問題に対して、様々な情報から因果関係を見通し、地域の人々や仲間とともに解決に向けての方向性や取組を検討し、判断することができる。				
	2 ☆多面的・多角的に考える力	【☆多】	根拠を明確にしながら様々な見方や考え方で検討する力。批判的思考力。考えや解釈の妥当性を考える力。予測し判断する力。	具体的な遊びや活動体験を通して、心と体を一体的に動かしながらあれこれ思いを巡らして活動に取り組む、自分なりにその価値を意味付けたり価値付けたりすることができる。			課題を解決するために、共通点や差異点を基に比較したり、根拠をもって関係付けたり、条件付けたり、多面的に調べたりしながら、妥当性のあるよりよい考えを見出すことができる。					課題を解決するために、調べた情報や考えなどを関係性や特徴などについて分析して解釈し、より妥当な考えを作り出すことができる。				
	3 ☆提案・発信する力	【☆提】	地域への愛着を持ち、よりよい社会づくりに向けた取組を提案する力。解決策や考えたことについて効果的な発信方法を考える力。新しい視点や価値観を生み出す力。	周囲の「ひと・もの・こと」と関わりながら、楽しかったことや感じたことを絵や言葉などで表すことができる。			捉えた町のよさがよりよく伝わるように、様々な方法のまとめ方を学び、発信方法を広げることができる。		よりよい社会づくりに向けた取組について、相手に応じた表現や提案の仕方、発信方法を選択・決定し、取り組むことができる。			持続可能な社会づくりの視点から、これからの住田町にとって必要な事柄や対策について具体的に提案し、自分たちの発信後の効果を想定しながらよりよい発信方法を工夫して、地域から広がりのある発信をすることができる。				
	4 ☆好奇心・探究心	【☆好】	身の回りや地域の事象に興味関心を持つ態度。もっと知りたいと思う心。知りたいことや解決したいことをみつけようとする姿勢。	自分を取り巻く「ひと・もの・こと」に自発的な関心に向け、それを自分自身にとって意味のあるものと感じ取り、積極的に関わろうとしている。			周囲の「ひと・もの・こと」に関わり、それを自分自身とのかかわりで意味付けをしながら、自分で取り組むべき課題を見出そうとしている。		周囲の「ひと・もの・こと」に自発的な関心に向け、それを自分自身とのかかわりで意味付けをしながら、自分で取り組むべき課題を見出そうとしている。			周囲の「ひと・もの・こと」に関して自分が見出した課題について、主体的に学習活動を展開し、自分なりに納得できる答えを探し求めていこうとしている。			唯一の正解が得られない具体的な問題や未知の課題についても、目的意識を明確にして自立的によりよく問題を解決しようとする。	
	5 ☆困難を解決しようとする心	【☆解】	失敗してもあきらめずに挑戦しようとする心。集団の仲間とともに困難な場面に直結しても粘り強く取り組み、最後までやり遂げようとする姿勢。	興味・関心のあることだけでなく、自分のやるべきことをしっかりと行い、やり遂げた喜びを味わう経験を積み重ね、自分にとって難しいと思うことでも最後までやり遂げようとする。			困難な場面に直面しても、共通の目的に向かって仲間と共に粘り強く取り組み、失敗してもその経験を生かしながら最後までやり抜こうとする。		目標の実現には困難や失敗の体験を乗り越えることが大切であることや、思い通りの結果にならなくとも挑戦し続けることの大切さに気づき、着実にやり遂げようとする。			目標の実現には困難や失敗の体験を乗り越えることが大切であることや、思い通りの結果にならなくとも挑戦し続けることが日々の生活を充実させていくことにつながることに気づき、社会の発展を支えていこうとする。				
C 人間関係形成に関する資質・能力	1 ☆伝え合う力	【☆伝】	調べたことや自分の考えを伝える力。視覚的に伝え方を工夫する力。気持ちや感じたことなどを伝える力。双方向的に伝え合う力。	地域の出来事や自分の生活等について、身近な人々と思いや考えを伝え合い、関わるのが楽しさが分かり、進んで交流することができる。			丁寧に理由付けしたり、事例をあげたりしながら、自分の考えを伝えることができるとともに、話し手の伝えたいことや自分の聞きたいことの中心を捉えて聞き、考えを伝え合うことができる。		資料を活用するなどして自分の考えが伝わるように表現を工夫したり、互いの立場や意図を明確にしながら伝え合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。			自分の考えが伝わるように、場の状況を判断しながら言葉を選ぶなどの適切な働きかけを行ったり、様々な立場や考え方を尊重しながら他者の考えを受け止めて相互理解を深めることができる。			自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解することができる。様々な立場を理解し、異なる年齢の人や異性等、多様な他者と場に応じたコミュニケーションを図ることができる。	
	2 ☆協働する力	【☆協】	目標達成に向かって、他者と協力して活動できる力。議論し合ったり、集団活動を統制したりする力。	友達や身近な人々と楽しく活動する中で、共通の願いや目的を見い出して、工夫したり協力したり、問題を解決しようとしたりすることができる。			共に活動する仲間等と、互いの思いや願い、考えを交流しながら、力を合わせて取り組むことができる。		共通の目標に向かって、仲間や関わる人々の中で、自分の立場や果たすべき役割を果たしながら、様々な活動に積極的に活動することができる。			様々な集団での活動において、活動する意義や目標を捉え、互いに協力し励まし合う関係を築き、その中で自分の役割や責任を自覚し集団の一員として活動することができる。			様々な集団での活動において、集団の一員として、よりよい活動や生活に寄与するような自分自身の在り方を振り返り、所属感を高めながら取り組むことができる。	



1. ルーブリックの作成に関して（前回の振り返り）

西岡加名恵（2016）『教科と総合学習のカリキュラム設計』図書文化、p.112

ルーブリックの作り方：成果物がない場合②（予備的）

1. 観点別ルーブリックのテンプレートを用意する（観点は多くても6個）

尺度	観点				
重みづけ⇒					
4					
3					
2					
1					

最も良いレベル（理想的なサイクリストの姿）から考えたい

2. 特定のパフォーマンスを想定しつつ、「すばらしい〇〇〇の条件は何か？」を考える
3. 思いついた条件のうち重要なものを観点の数に絞り、観点欄に書き込む
4. 「程度の違いを記述する用語集」（次スライド）を参照しつつ、各レベルの記述語を完成させる
5. 必要であれば、計100%となるように配点の重みづけを書き込む

理解の程度	頻度の程度
<ul style="list-style-type: none">綿密で完全なしっかりした部分的ないし不完全な誤解がある、あるいは深刻な誤概念	<ul style="list-style-type: none">常に、継続的に頻繁に、一般的に時々、時にめったに～ない、決して～ない
効果の程度	独立の程度
<ul style="list-style-type: none">非常に効果的かなり効果的いくらか効果的効果的ではない	<p>学習者は課題を……なしとげる。</p> <ul style="list-style-type: none">独立して最小限の支援のもとでいくらかの支援を必要としつつかなりの支援を必要としつつ
正確さの程度	明瞭さの程度
<ul style="list-style-type: none">完全に正確である。すべて（の事実、概念、手順、計算）が正しい。一般的に正確である。些少な不正確はあるが、全体としての結果には影響ない。不正確である。数多くの間違いによって、結果が損なわれている。大きく不正確である。終始、重大な間違いがある。	<ul style="list-style-type: none">非常に明瞭。とてもわかりやすい。概して明瞭。わかりやすい。明瞭さに欠ける。わかりにくい。不明瞭。わからない。



4. 行動評価表（ルーブリック）の観点（案）

分類	観点	定義（最も上のレベルの文章）
<態度> A. 交通社会の一員としてのふるまい	交通社会の一員である自覚	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車を含む交通環境や交通事故の状況を自分に関係するものとして認識する ・ 交通社会をより良くするため、交通安全イベントや講師など実施主体となる
	安全を優先する考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車を使用する際は時間にゆとりを持ち、車道走行時、歩道走行時、いずれも他の交通主体と譲り合って走行できる（時間にゆとりがない時でも、事故に繋がらないよう他の交通主体と譲り合って走行している） ・ 天候等によっては自転車を使用せず、移動時間が増えるとしても、より安全な移動手段を選択している
	自転車利用の責任	自転車は車両であることを認識し、加害者にも被害者にもなりうることを理解した運転行動が継続的にできており、特に歩道走行時の歩行者優先が徹底している
<知覚・認知能力> B. 道路通行時に必要とされる能力	（他交通主体との関係における危険予測） 交通状況の把握と適切な判断、対応	車道左側を走行し、道路を走行する他の交通主体から自分がどのように見えるか（又は、見えないのか）を認識し、十分にコミュニケーションをとったうえで譲り合い走行する
	（地形的な危険予測） 道路における危険の理解 顕在的危険と潜在的危険の予測及び回避	生活圏の危険箇所を把握し、適切な回避行動を自己の判断で行うなど、自分も他人も事故に遭わないための適切な運転行動が意識せずできる
<運動能力> C. 安全に自転車で走行する能力	特性に応じたな車両操作、バランス感覚	自分の乗る自転車の特性を理解したうえで、常に安定的な車両操作ができる
	加減速とハンドル操作の調整 （自己の運動能力を自覚した行動の変化）	どのような状況（平坦な道、坂道、曲がっている道、細街路など）でも安定して走行することができる
<長期的> D. 自転車の楽しさ	自転車をを使って身体を動かすことの楽しさ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常的にあらゆる場面で自転車を活用している ・ サイクリング、散歩など自転車に関する趣味がある

4. 行動評価表（ループリック）のイメージ



○全体総括版の行動評価表（ループリック）イメージ

分類	観点	ステージ1	ステージ2	ステージ3	ステージ4	ステージ5	ステージ6	ステージ7	ステージ8	ステージ9	ステージ10	
<態度> A. 交通社会の一員としてのふるまい	(A-1) 安全を優先する考え方	同じ道路上に他の交通主体が存在することを認識し、譲り合うとはどういうことかを理解する								自転車を使用する際は時間にゆとりを持ち、車道走行時、歩道走行時、いずれも他の交通主体と譲り合って走行できる		
	(A-2) 自転車利用の責任	自転車はクルマの仲間であり、交通ルールを守らなければならないことを認識して自転車を使う								自転車は車両であることを認識し、加害者にも被害者にもなりうることを理解した運転行動が継続的にできており、特に歩道走行時の歩行者優先が徹底している		
(1)												(2)
<知覚・認知能力> B. 道路通行時に必要とされる能力	(B-1) 交通状況の把握と適切な判断、対応	他の交通主体を認識し、譲り合い走行する									車道左側を走行し、道路を走行する他の交通主体から自分がどのように見えるかを認識し、十分にコミュニケーションをとったうえで譲り合い走行する	
	(B-2) 道路における危険の理解 顕在的危険と潜在的危険の予測及び回避										生活圏の危険箇所を把握し、適切な回避行動を自己の判断で行うなど、自分も他人も事故に遭わないための適切な運転行動が意識せずできる	
											生活圏の危険箇所を把握し、自分の判断から行動に至るまでの時間等も把握し、自分も他人も事故に遭わないための適切な運転行動ができる	

- (1) 本日は「分類」「観点」について議論し、本日のゴールとして確定させたい
- (2) 「観点」について合意が得られた場合「理想的なサイクリストの姿」の文章を議論したい